

## 開設2年 災害対策マニュアル・アクションカードの作成と活用への試み

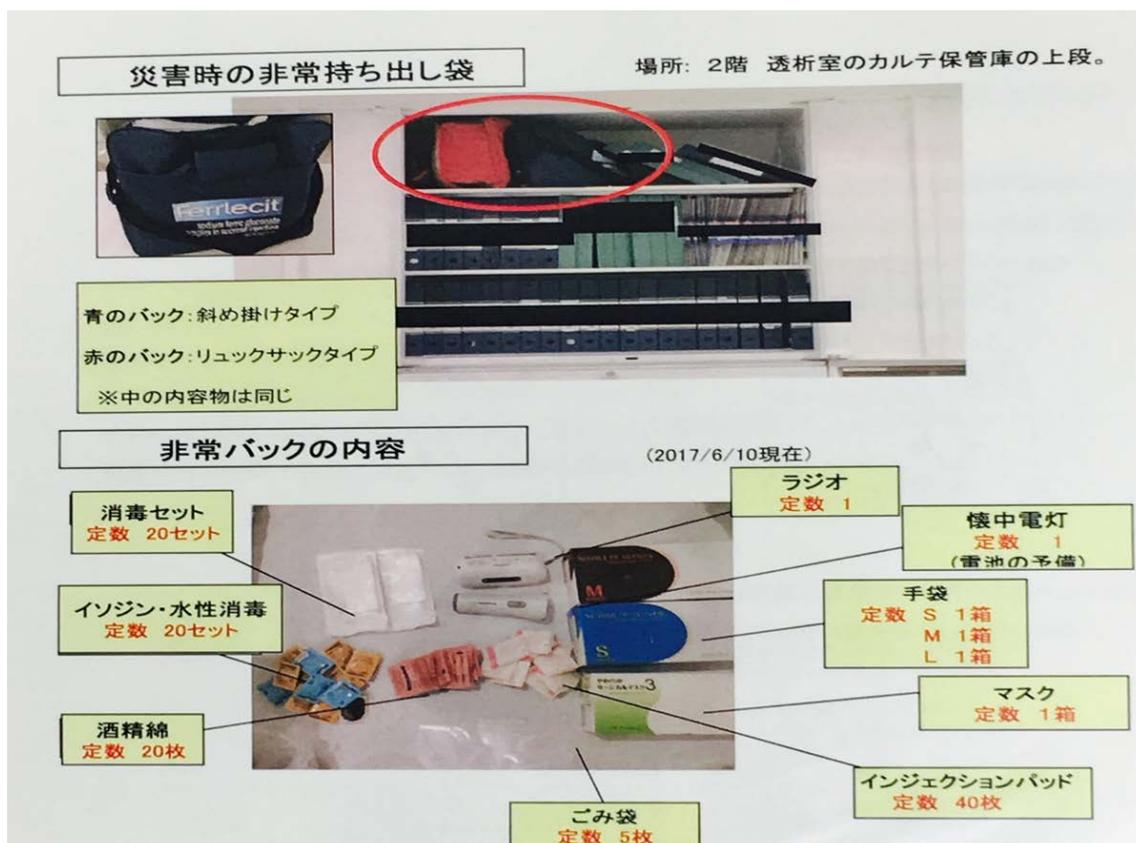
医療財団法人青葉会 東都三軒茶屋クリニック 看護部<sup>1)</sup> 臨床工学科<sup>2)</sup> 腎臓内科<sup>3)</sup>  
○成田 晃子<sup>1)</sup> 後藤 康司<sup>2)</sup> 大坪 茂<sup>3)</sup>

【はじめに】当院は、2015年11月に立ち上げた透析クリニックである。災害対策マニュアルを作成し、職員が実際に行動できるようにアクションカードを作成し活用を試みたので報告する。

【方法】様々な状況下での災害発生に備え、患者と職員の安全を守るために、日勤帯と遅番帯での災害発生に対応できるマニュアルとアクションカードを作製する。マニュアル、アクションカードに沿ってシミュレーション訓練を実施する。

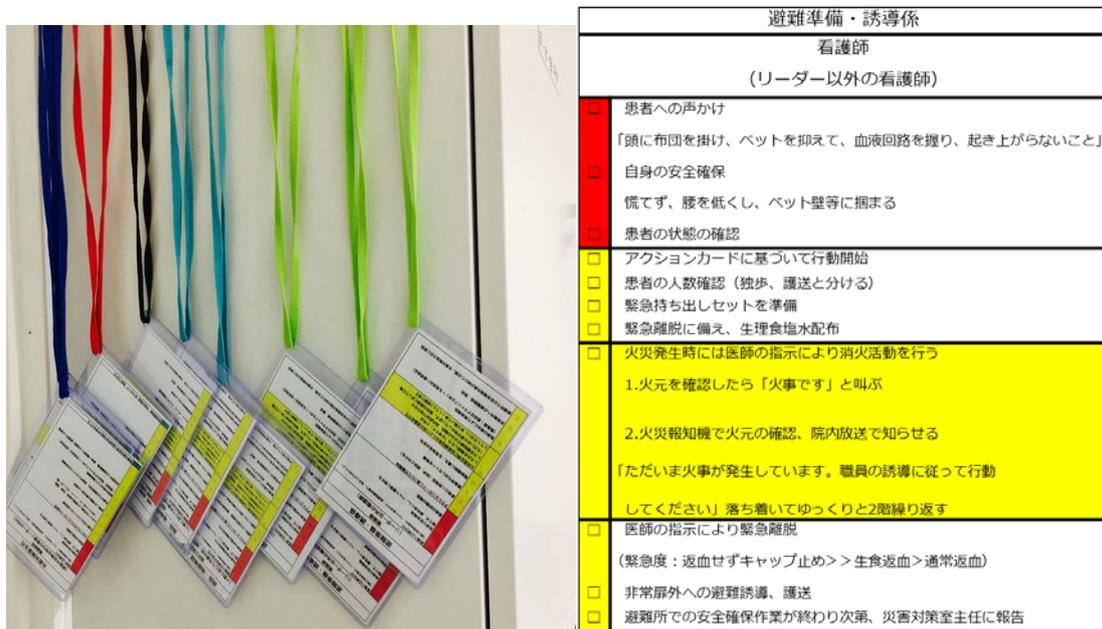
【結果】マニュアルには、日常の防災対策として環境整備、必要医療品・薬剤などの備蓄、患者情報の管理、職員の緊急連絡網を記載した。持ち出し物品の保管場所や内容は写真で示した(図1)。

図1. 非常時の持ち出し物品



地震発生の規模ごとに予測される状況を示し、職員の行動を時系列で明記した。アクションカードは、災害発生時の出勤職員が各自カードの内容に沿って行動できるように短い文章で表記し、持ち運べるサイズで作成した(図2)。

図 2. アクションカードの例



建物内の防災設備について実際に見て確認し、消火器の使い方の実施訓練も行った（図 3）。

図 3. 消火器の使用訓練



避難場所も確認し、日本透析医会災害時情報ネットワークならびに東京都区部災害時医療ネットワークへの状況報告方法の確認も行った。アクションカードについては震度 6 の地震を想定し机上での訓練を行った（図 4）。

図 4. アクションカードを使った机上訓練



【考察・結論】 災害発生の規模だけでなく、発生時間や出勤職員の人数や経験年数、患者の状態などによって必要な対応は様々になると予測され、マニュアル化することは難しかった。だからこそ、日頃から意識的に行動し、患者とも災害について語れる場面を持ち指導できるよう、引き続き取り組んでいく必要がある。